



Jリート市場の現状と見通し : 2025年3月

2月の東証REIT指数(配当込み)は小幅に上昇しました。国内政策金利の最終到達点(ターミナルレート)が切り上がるの思わくが強まったことなどを背景に長期金利が上昇したことが重しとなり、月初から軟調合いが継続しました。その後、シンガポール系の投資ファンドが阪急阪神リート投資法人を対象とするTOB(公開買い付け)の開始を発表したことなどをきっかけに、予想分配金利回りに着目した買いなどが見られたほか、米企業の景況感や個人消費関連の経済指標の悪化などを受け、米長期金利が低下に転じたことなども支援材料となり、Jリート市場は月末にかけて前月末の水準を回復して引けました。

3月のJリート市場は、日米中央銀行の金融政策や長期金利の動向を睨みながら、戻りを探る展開になることが見込まれます。日銀が利上げを継続する意向であることはJリート市場の重しとなっています。また、トランプ政権の関税政策の実行などがインフレ圧力を強める場合には、米長期金利に再び上昇圧力がかかる可能性があります。しかしながら、足元では、経済指標の悪化を背景とした景気鈍化懸念を受け、米長期金利は低下に転じています。東京都心のオフィス市場は改善しているほか、資本コストを意識したリートの運営、5%超の予想分配金利回りに着目した一定の買いなどがJリート市場の下支え要因となりそうです。また、アクティビスト(物言う株主)による新たなTOB(公開買い付け)や買収提案の動きにも注目したいところです。

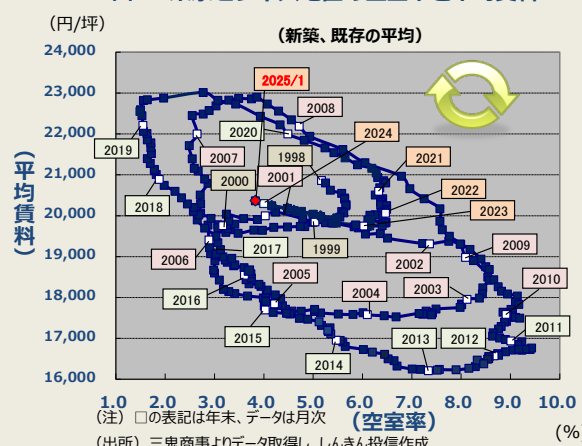
Jリート関連指標

図1. 予想分配金利回りと10年債利回り



(注) 月末値。Jリート予想分配金利回りは、東証上場REITの予想分配金利回り。
2008年4月以前のデータはしんきん投信が算出、それ以降は、QUICKが算出。
(出所) 東京証券取引所、Bloomberg、QUICKよりデータ取得し、しんきん投信作成

図2. 東京ビジネス地区の空室率と平均賃料



(注) □の表記は年末、データは月次
(出所) 三鬼商事よりデータ取得し、しんきん投信作成

●主要指標 (2025年2月末時点)

時価総額	Jリート上場銘柄数	Jリート予想分配金利回り	新発10年債利回り
14兆6,808億円	57	5.112 %	1.370 %

(注) Jリート予想分配金利回りは、東証上場REITの予想分配金利回りで、QUICKが算出

東証REIT指数			東証REIT指数（用途別指数）						TOPIX		
			前月末比		オフィス 前月末比		住宅 前月末比				
配当なし	1,700.49	-0.3 %	1,666.44	-0.0 %	2,698.26	-1.0 %	2,078.64	-0.3 %	配当なし	2,682.09	-3.8 %
配当込み	4,379.01	+0.6 %							配当込み	4,616.34	-3.8 %

(出所) Bloomberg、QUICKよりデータ取得し、しんきん投信作成

前月の主なイベント

- ◆ 東証が発表した1月の投資部門別売買状況では、事業法人、個人は買い越し継続、海外投資家は買い越しに転換。投信は売り越し継続、銀行は売り越しに転換。
- ◆ 三鬼商事が発表した1月の東京都心のオフィス空室率は、3.83%と0.17ポイント低下。賃料は2万368円/坪と、前月比0.35% (72円) 上昇。上昇は12か月連続。
- ◆ 13日：シンガポール系の投資ファンドが、阪急阪神リートを対象とするTOB(公開買い付け)を発表。
- ◆ 17日：日本プライムリアルティ、CREOジステクスファンド、21日：ジャパンエクセレント、27日：日本プロロジスリート 28日：グローバル・ワン不動産が自己投資口の取得を発表。

今月の主な決算発表予定の投資法人

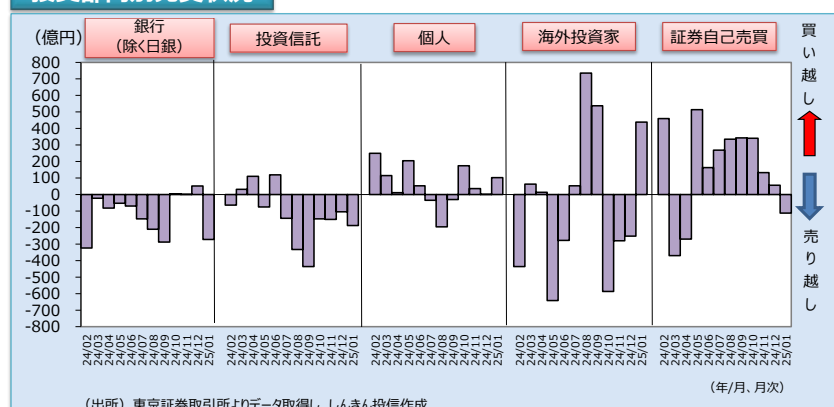
- 12日：日本ロジステクスファンド
- 14日：サムティ・レジデンシャル、いちごホテルリート
- 17日：東急リアルエースト、森ビルズリート、アドバンス・レジデンス、コンフォリア・レジデンシャル、イオンリート、スターアジア不動産、エスコンジャパンリート

東証REIT指数

【予想レンジ期間】(2025年3月～2026年3月)
【予想レンジ】東証REIT指数：1,600～2,000



投資部門別売買状況



(2025.3.4)



＜本資料に関してご留意いただきたい事項＞

※本資料は、ご投資家の皆様に投資判断の参考となる情報の提供を目的として、しんきんアセットマネジメント投信株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。

※本資料は、信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。また、いかなるデータも過去のものであり、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。

※本資料の内容は、当社の見解を示しているに過ぎず、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。記載内容は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。

※投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の補償の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。

※投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。

※特定ファンドの取得のお申込みに当たっては、販売会社より当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめ又は同時にお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。

※本資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。

【お申込みに際しての留意事項】

■投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■投資信託に係る費用について

(お客様に直接ご負担いただく費用)

◆ご購入時の費用…購入時手数料 上限3.3%(税抜3.0%)

◆ご換金時の費用…信託財産留保額 上限0.3%

(保有期間中に間接的にご負担いただく費用)

◆運用管理費用(信託報酬)…純資産総額に対して、上限年率1.628%(税抜年率1.48%)

◆その他の費用…監査費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、有価証券売買時の売買手数料等および外貨建資産の保管等に要する費用は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきます。また、投資信託証券を組み入れる場合には、お客様が間接的に支払う費用として、当該ファンドの資産から支払われる運用管理費用、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用につきましては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。投資信託に係る上記費用(手数料等)の合計額については、ご投資家の皆様はファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、しんきんアセットマネジメント投信が運用する全ての投資信託のうち、ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、事前に投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくお読みください。